

令和7年11月28日  
午後1時30分から  
本庁舎13階大会議室B

**足立区環境審議会**  
**第2回意識啓発・行動変容専門部会資料**

## 目次

1	すべての年代の意識啓発・行動変容	
(1)	環境への取組により+ $\alpha$ の効果を感じてもらおう仕組み	1
(2)	これまで環境への意識が低かった層を巻き込む仕組み	2
(3)	「やってみたい」環境活動を実現できる仕組み	3
2	子ども・若者の意識啓発・行動変容	
(1)	若者に届く情報発信	4
(2)	体験の機会を創造する仕組み	4
(3)	楽しみながら環境を学ぶ仕組み	5
(4)	家庭で共有、習慣化できる仕組み	5

第2回意識啓発・行動変容専門部会資料

第1回専門部会における意見と取りまとめ事項

第1回部会の検討事項 (方向性事務局案)	意見等
<p>1 すべての年代の意識啓発・行動変容事務局案(方向性)</p> <p>(1) 環境への取組により+αの効果(経済的にお得、健康に良い等)を感じてもらう仕組み</p>	<p>1 インセンティブ</p> <p>ア 人の行動を変えるのは難しい。区民に無理のない形で行動してもらうには仕組みを作らなければならない。例えば、分別の指定が細かすぎると、「リサイクル疲れ」のような状態になり、続かずにやめてしまうようなケースもある。</p> <p>イ 行動を変えるきっかけを作るためにインセンティブは有効。 多様な価値観がある中で、倫理観や正義感に訴えるだけではなかなか浸透しない。<u>理念と経済両面からのアプローチ</u>により、関心が薄い層には行動の呼び水になる。 ⇒ポイント付与、商品券、図書券の配布等</p> <p>ウ 表現も含め、経済的な効果、利益だけに焦点が当たるような打ち出し方とならないよう工夫が必要。</p> <p>エ 少し手間だが、環境効果に加え安価となるシャンプーの詰め替えのようなイメージで良いか？ ⇒新しい容器を購入しないことが経済的にも、資源的にも良いということの良い事例かと思う。</p> <p>オ <u>ごみ拾い大会</u>のような楽しんで参加する企画に少しのインセンティブを加えて実施するのが効果的ではないか。</p>



第1回部会での議論を踏まえた方向性及び第2回部会での検討点(事務局案)
<p>第2回専門部会では第1回部会で示した事務局案をベースとし、より具体的な施策の考え方について検討を進める。</p> <p>1 環境への取組で+αの効果を感じてもらう仕組み 環境活動には手間がかかることや、多様な価値観がある中で、区民の行動変容を促すため以下の考え方を組み合わせ、効果的な施策を展開。</p> <p>① 環境以外の効果も併せて感じられる施策。 ⇒インセンティブによる誘導、行動のきっかけづくり 例：補助金、ポイント付与、健康の効果を併せて発信</p> <p>② 手間をかけてでも取組む意義や効果を理解してもらう工夫と発信(取組むことへの価値や満足度を実感)。 ⇒過程や効果の見える化と自分ごと化 「2-1 啓発事業②」にも記載</p> <p>③ 課題と対策の共有等、取組を継続できる仕組みの構築。 例：プラスチック分別回収モデル地区での声を区内全域展開の説明に活用、プラの保管方法のコツを発信</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「実際に分別してみるとプラスチック使用の多さを実感」 ⇒その声を共有することでプラスチックの使用を控えることの意識付けにもなる (②の「理解」や「自分ごと化」にもつなげられる)</p> </div>

第1回部会の検討事項 (方向性事務局案)	意見等
<p>1 すべての年代の意識啓発・行動変容 事務局案(方向性)</p> <p>(2) これまで環境への意識が低かった層を巻き込む仕組み</p>	<p>2 啓発事業、イベントの実施</p> <p>ア (事務局) 環境に関心が薄い層への啓発ともなるよう、環境フェアではなく、区民まつりの中に一定の規模で環境部エリアを設け啓発を行う。</p> <p>イ 「環境」を前面に押し出すことで、環境に興味がある区民以外への波及が見込めないのであれば、タイトルやメニューを工夫し環境フェアのような形で実施すべき。</p> <p>ウ 青空市のようなリユース、リサイクルを目的とする若者が集まったり、併せて一角に啓発のパネル展示をするなど、環境配慮の暮らし方が見つかるようなイベントを企画してほしい。</p> <p>エ 過去の環境フェアの企画</p> <p>① 苗を渡し、育てた植物を数年後に持ち寄る企画</p> <p>② 子どもたちの環境学習の発表の場→環境をテーマに子どもと大人をつなぐ場の役割</p> <p>オ 多様性を考慮した啓発活動(取組に外国人を巻き込む仕組みの構築)</p> <p>カ LINE公式アカウント「あだち脳活ラボ」の環境版を製作し情報提供してはどうか。</p> <p>キ 荒川で在来種の稚魚の放流をやってみてはどうか。</p>



第1回部会での議論を踏まえた方向性及び第2回部会での検討点(事務局案)
<p>第2回専門部会では第1回部会で示した事務局案をベースとし、より具体的な施策の考え方について検討を進める。</p> <p>2-1 啓発事業</p> <p>① 環境問題の現状への正しい理解 例: LINE や SNS の活用による発信や専門家の講座実施</p> <p>② 環境問題を「自分ごと」として捉え、行動してもらう啓発。 例: 最終処分場の残余年数を知り、危機感を共有できる発信により、リユースや分別への理解と協力を求める。</p> <p>③ 多様性への対応 例: 外国人へのごみ出しや分別ルールの指導(地域リーダーとの連携、活用等)</p> <p>2-2 イベントの実施</p> <p>① 環境活動を積極的に行う人、団体の発信、活躍の場 例: 若者によるリユースイベント、小学生の活動発表講座等による環境学習</p> <p>② 環境問題への意識が低い人を巻き込む場・催し 例: 区主催イベントにおける環境エリアの設置・運営 イベントで自ら育てて収穫できる植物の種の配布(取組のきっかけづくり)</p> <p>③ イベントを活用した自然・生物の学び 例: 緑豊かな足立区の自然環境を活かしたイベント・体験</p>

第1回部会の検討事項 (方向性事務局案)	意見等
<p>1 すべての年代の意識啓発・行動変容事務局案(方向性)</p> <p>(3)「やってみたい」環境活動を実現できる仕組み</p>	<p>3 やってみたい環境活動の支援</p> <p>ア 「環境分野の夢を実現できます」という考え方は面白くて良いと思う。 ⇒環境基金</p> <p>イ 先進的な取り組みについては、区としても情報収集をしつつ挑戦していくべき。</p> <p>ウ 区の事業から生まれた環境マイスターが活躍できる場を創造すべき。 ⇒環境ゼミナール～環境マイスターの支援の流れや活用</p> <p>エ ごみ拾いイベントにおける回収ごみの取り扱いのような区民がチャレンジするうえで課題となる部分を区がサポートして後押ししてほしい。</p> <p>4 その他</p> <p>ア 現状、支援策のメインが補助金となっている。補助金に頼らない環境政策への方向転換を検討すべき。</p> <p>イ 外国人の人口増により増加しているごみの出し方の問題などは、<u>地域コミュニティのリーダーへの啓発</u>により防ぐことが可能となるのではないかと。</p> <p>ウ <u>区内大学と連携し、環境問題の解決と区の魅力発信、新商品の開発などを併せた取り組みを企画</u>してはどうか。</p> <p>エ 環境問題はすべての人に当事者性がある問題である。環境問題で苦しんでいる人の声を聴くなど、共感することで行動変容につなげることができる。</p>



第1回部会での議論を踏まえた方向性及び第2回部会での検討点(事務局案)
<p>第2回専門部会では第1回部会で示した事務局案をベースとし、より具体的な施策の考え方について検討を進める。</p> <p>3 「やってみたい」の支援</p> <p>自ら考え、行動する環境活動を支援することで、活動主体の増加・育成につなげる。</p> <p>① 環境基金の助成による団体、企業、大学、個人の支援 (先進的な企業・大学の取組を含む)</p> <p>② 環境マイスター等団体の支援 専門的な学びとともに「やりたい活動」を引き出し、具体的な行動をサポート</p> <p>③ 区民の新たなチャレンジへのサポート 例：ボランティアごみの対応と周知</p>

第1回部会の検討事項 (方向性事務局案)	意見等
<p>2 子ども・若者の意識啓発・行動変容 事務局案(方向性)</p> <p>(1) 若者に届く情報発信</p> <p>(2) 体験の機会を創造する仕組み</p>	<p>1 情報発信</p> <p>ア 若い世代特有の情報入手の方法を活用することは有効。</p> <p>イ <u>短時間の動画</u>による発信。</p> <p>ウ 若者から若者への発信が有効。 <u>起点となる若者を確保する仕組みの構築。</u> 高校生であれば総合選抜入試や A0 入試の評価項目となる可能性→<u>インセンティブ</u>になる。 発信者が途切れず継続性のある仕組みとなる。</p> <p>2 体験</p> <p>ア 子どもの自然体験の機会は平成 10 年代から減少してきているというデータがある。</p> <p>イ VR など ICT の活用で自然体験と同様の効果は得られるか？ ➡ 五感を使った数値化できない体験と考えるので、実際に自然体験することが一番と考える。 実際の体験と専門家からの話から問題意識を高め、その問題を「自分ごと化」することが行動変容につながる学びであると考えます。</p> <p>➡ イベントで廃食油回収から航空燃料になる過程を VR で見て体験する催しを行っている。そこから家庭での会話等につながっていくことを期待している。</p> <p>ウ 若い世代はリユースの意識が高い。競馬場で実施された衣類が中心の青空市が盛況であった。 <u>若者がリユース、リサイクルのために集まり活動できる場となるイベントを実施すべき。</u> ➡ 青空市の参加者は自分のもののリユースが実現できたことで爽快感や納得感が得られる。そのような場を作ることは大切。</p> <p>エ 学童に通う小学生が SDG<sub>s</sub> を学び、保育園児に説明する機会があった。同様に高学年→低学年でも実施すれば<u>学びが受け身でなくなり、より行動につながりやすくなる。</u></p> <p>オ 日常的な実感を伴う活動で成功体験を積み重ねることが重要。 ラジオ体操後の公園でゴミ拾い</p> <p>カ 小・中学生の打ち水体験。効果やなぜやるのかを理解してもらえるような学びと併せて行う。</p> <p>キ 自然の中に身を置く体験で自然そのものの価値を見出すことができる。 自然体験は家庭の経済状況にも左右されるため、区の積極的な支援が必要。</p>



第1回部会での議論を踏まえた方向性 及び第2回部会での検討点(事務局案)
<p>第2回専門部会では第1回部会で示した事務局案をベースとし、より具体的な施策の考え方について検討を進める。</p> <p>1 若者に届く情報発信</p> <p>① ショート動画による発信 例：プラスチック分別のショート動画 (詳しい情報を発信するロングバージョンと併用)</p> <p>② 若者自身が発信者となる情報発信の仕組みの検討 参加が若者にとってインセンティブとなるような仕組み</p> <p>2 体験の機会を創造</p> <p>① 自然体験の機会 例：友好都市との連携による自然体験事業</p> <p>② 体験と学びを組み合わせた事業 例：小・中学校出前講座でのワークショップと講義 環境情報プラザの各種講座やワークショップ 日常の活動と併せた環境の取組</p> <p>③ イベントを体験の場に 例：若者が主体となり運営するリユース、リサイクルイベント ワークショップ、VRによる疑似体験等、出展の工夫</p>

第1回部会の検討事項 (方向性事務局案)	意見等
<p>2 子ども・若者の意識啓発・行動変容 事務局案(方向性)</p> <p>(3) 楽しみながら環境を学ぶ仕組み</p>	<p>3 楽しみながら環境を学ぶ、環境教育</p> <p>ア 登山やグランピングを通じて森林保護を学ぶ自然体験や、海洋プラスチック問題を学ぶために海のごみ拾いと併せた海洋プラスチックでアートを制作するワークショップなどがある。</p> <p>イ 億劫や終わりが無いという理由で素通りしてしまうごみ拾いも、ゲーム感覚の楽しさと街の美化に貢献できたという満足度の両方を得られる取り組みとすることで、自発的な行動に変える後押しとできる。</p> <p>ウ 環境イベントで小・中学校と連携した環境学習のメニュー提供。</p> <p>エ 環境教育のプログラムは長期的に取り組むことで、定着や広がりにつながることに加え、効果を検証し変化を見ることにも有効と言える。</p>
<p>(4) 家庭で共有、習慣化できる仕組み</p>	<p>4 家庭で共有、習慣化</p> <p>ア 環境イベントを親子で参加できる催しとすることで、「環境」が家庭での共通の話題になる。</p> <p>イ 学校で行う禁煙教育のように、子どもが学んだことを家庭に持ち帰ることで大人にも波及する。そういう視点からも子どもへの環境教育は重要。</p>



第1回部会での議論を踏まえた方向性 及び第2回部会での検討点(事務局案)
<p>第2回専門部会では第1回部会で示した事務局案をベースとし、より具体的な施策の考え方について検討を進める。</p> <p>3 楽しみながら環境を学ぶ仕組みの構築</p> <p>「ゲーム感覚」や「仲間と一緒に」など、楽しみながら環境問題を知り、学ぶことで、取組のきっかけとする。</p> <p>① 競技形式で意欲を引き出す。 例：環境かるた大会(読み札も子どもから募集) ごみ拾い大会</p> <p>② 自然体験やワークショップ等を組み合わせた参加型事業 例：荒川の自然を感じながら行うウォーキングイベント</p> <p>③ 学校との連携による環境学習 例：小・中学校向け出前授業の実施(多数のメニューを用意し、学校が選択)</p> <p>④ 興味を惹く工夫 例：タブレットを活用し、動画で楽しく環境やSDGsを学ぶことができる環境学習教材 アプリを使った生き物観察(自ら生き物を探す)</p> <p>4 家庭で共有、習慣化する環境活動</p> <p>➡ 「環境」を家庭内の共通の話題に</p> <p>① 親子で参加できるイベント・講座・ワークショップの実施</p>